



Title	伝統的市街地における生活空間構造の重層性とその生活変容に関する研究 -インドネシア(ジャワ島)都市を中心として-
Author(s)	田原, 直樹
Citation	大阪大学, 1990, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/1834
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・（本籍）	た はら なお き 田 原 直 樹
学位の種類	工 学 博 士
学位記番号	第 9 1 8 3 号
学位授与の日付	平成 2 年 3 月 24 日
学位授与の要件	工学研究科環境工学専攻 学位規則第 5 条第 1 項該当
学位論文題目	伝統的市街地における生活空間構造の重層性とその生活変容 に関する研究 －インドネシア（ジャワ島）都市を中心として－
論文審査委員	(主査) 教授 東 孝光 教授 紙野 桂人 教授 末石富太郎

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、インドネシア、ジャワ島都市を対象として、伝統的市街地における生活空間構造の重層性と
その生活変容を考察したもので、本論 3 部 6 章、総括および結言からなっている。

第 1 章では、フィールド調査および既存研究から得られた知見をもとに、歴史的形成に基づく市街地類
型とその履歴の考察を通じて、ジャワ島都市が宗教と民族を軸とする社会集団の居住地を要素とするモザ
イク状構成をもつことを明らかにしている。

第 2 章では、第 1 章で抽出した類型別市街地における空間構成と居住環境の実態把握を通じて、それぞ
れの類型別市街地が各社会集団に特有の構成をもつことを明らかにしている。こうしたジャワ島都市の市
街地構造は、生活空間の伝統を維持、継承する装置として機能していると考えられる。

第 3 章では、過去の都市に関する文献資料、および、現存する伝統的都市に関する既存研究およびフ
ィールド調査をもとに、伝統的都市が特定の伝統的空間構成原理に基づき構成されていることを明らかにし
ている。

第 4 章では、主としてフィールド調査の結果に基づき、伝統的都市における空間構成の変容要因を考察
し、生活様式の近代化に起因する部分が多いことを明らかにしている。

第 5 章では、住宅デザインおよび居住環境に対する人びとの志向の分析を通じて、生活空間は単純な伝
統対近代化という図式で把握し得るものではなく、その構造に応じた個別の論理が存在することを明らか
にしている。

第 6 章では、歴史的環境に対する人びとの志向および意向の分析を通じて、歴史的環境に対しては肯定
的認識が多いこと、また、それは象徴的な存在によって認識される傾向にあること、さらに、生活様式の

近代化によって変容する可能性をもつことを明らかにしている。

総括および結言では、以上の知見を踏まえ、伝統的市街地における生活空間構造の重層性について論じるとともに、それに基づく新しい市街地整備の計画手法を提言し結びとしている。

論文の審査結果の要旨

近年、さまざまな分野でわが国の国際社会への貢献が期待されている。このことは、都市計画においても例外ではなく、こうした状況に呼応して、海外都市、とりわけ、アジア都市への研究関心が高まっている。しかしながら、この分野における研究蓄積は比較的少なく、依然として多くの研究課題が残されている。このような状況を背景として本研究は、インドネシア（ジャワ島）都市を対象として、その伝統的な生活空間構造の実態とその変容の方向を解明することを通じて、海外都市における生活空間整備のあり方を考察したもので、その成果は次のように要約される。

- (1) ジャワ島における複数の都市を対象としたフィールド調査をもとに、1つの都市が、社会構成、空間構成、居住環境などの点で特性をもつ複数の地区が空間的、社会的に構造化されることによって成立していること、また、それぞれの地区は都市の歴史的形成の過程で発生した一定の普遍性をもつ要素であることを明らかにしている。
- (2) 歴史上に存在した都市および現存する伝統的都市を対象に、既存研究およびフィールド調査をもとに、都市、地区、建物のレベルで空間構成のパターンを検討した結果、ジャワにおける伝統的空間構成原理はプレヒンドゥー期に起源をもつ土俗的原理に様々な外来の影響がかぶさることによって形成されてきたものであること、また、中心性、軸性、入れ子性などの特徴をもつことを明らかにしている。
- (3) 伝統的都市における住居および住居クラスターの変容を、フィールド調査をもとに検討した結果、それが生活変容に起因することを明らかにし、生活空間の伝統の系譜を動的に理解する必要があることを指摘している。
- (4) 生活空間およびその伝統に対する人びとの意識を、フィールド調査および評価実験によって検討した結果、それが必ずしも伝統対近代といった図式によって把握し得るものではなく、生活上の条件など、様々な要因の作用として理解されるべきであることを明らかにしている。
- (5) 以上のような考察の結果、ジャワ島都市における生活空間は、その伝統の系譜という観点から見れば、外来の異なった文化文明要素を都市および地区という2つのレベルで、空間的にも社会的にも既存の構造に統合することによって成立したものであり、こうした生活空間構造の存在様式を重層性という概念でとらえることに成功している。また、生活空間整備に当たってはこうした特質を配慮する必要があることをあわせて指摘している。

以上のように、本論文はインドネシアの都市を事例として、海外の都市を理解する枠組みやそれにもとづく生活空間整備のあり方やその問題を示したものであり、環境計画学分野に寄与するところが大きい。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。